

(様式第10)

分大医総病第36号
令和元年(2019年)1

厚生労働大臣

殿

国立大学法人大分大学長

開設者名

北野正

大分大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、平成30年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地
氏名	国立大学法人大分大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

大分大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地	電話(097)549-4411
----------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
②医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
①呼吸器内科		③循環器内科
②消化器内科		④腎臓内科
⑤神経内科		⑦内分泌内科
⑥血液内科		⑧代謝内科
⑨感染症内科		⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科
⑪リウマチ科		
診療実績		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科		
診療実績		

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科		
歯科の診療体制		

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1腫瘍内科 2児童精神科 3神経小児科 4形成外科 5病理診断科 6リハビリテーション科 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
30床	0床	0床	0床	588床	618床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

医 師	410人	48人	426.1人	看護補助者	30人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	13人	2人	13.5人	理学療法士	11人	臨床検査技師	53人
薬剤師	36人	0人	36人	作業療法士	9人	衛生検査技師	0人
保健師	1人	0人	1人	視能訓練士	5人	その他	3人
助産師	25人	0人	25人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	677人	31人	702人	臨床工学士	18人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	0人	その他の技術員	6人
歯科衛生士	2人	0人	2人	歯科技工士	1人	事務職員	170人
管理栄養士	8人	0人	8人	診療放射線技師	35人	その他の職員	58人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数	専門医名	人数
総合内科専門医	46人	眼科専門医	9人
外科専門医	34人	耳鼻咽喉科専門医	9人
精神科専門医	8人	放射線科専門医	14人
小児科専門医	21人	脳神経外科専門医	12人
皮膚科専門医	7人	整形外科専門医	13人
泌尿器科専門医	12人	麻酔科専門医	19人
産婦人科専門医	8人	救急科専門医	8人
		合計	220人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (門田 淳一) 任命年月日 平成29年10月 1日

平成17年4月～平成28年3月 感染制御部長
平成17年4月～平成28年3月 感染予防対策委員会
平成17年4月～平成21年4月 メディカル・リスクマネジメント委員会

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	535.4 人	8.1 人	543.5 人
1日当たり平均外来患者数	1023 人	48.8 人	1071.8 人
1日当たり平均調剤数			1,867.66 剤
必要医師数			118.075 人
必要歯科医師数			5 人
必要薬剤師数			24 人
必要(准)看護師数			308 人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	心電計	人工呼吸装置	心細動除去装置
集中治療室	236.08m ²	鉄筋コンクリート	8床	有・無	有・無	有・無
			有・無	有・無	有・無	有・無
			有・無	有・無	有・無	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 81.71 m ² [移動式の場合] 台数 19 台		病床数	8 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 45 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	220m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動生化学分析装置			
細菌検査室	148m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 血液培養装置			
病理検査室	139m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動免疫染色装置など			
病理解剖室	283m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台など			
研究室	4,635m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン、顕微鏡など			
講義室	1,635m ²	鉄筋コンクリート	室数 11室	収容定員	1,495 人	
図書室	1,703m ²	鉄筋コンクリート	室数 13室	蔵書数	106,515 冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	83.8 %	逆紹介率	74.2 %
算出根拠	A：紹介患者の数		10,393 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		10,161 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		1,081 人
	D：初診の患者の数		13,678 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
井上 敏郎	大分県立病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
岡村 邦彦	岡村法律相談事務所		法律に関する識見を有する者	有・無	1
大嶋 美登子	別府大学		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・無	2
小野 克重	大分大学医学部		学長が必要と認める者	有・無	3
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 医学部附属病院のホームページにおいて公表している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	0人
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	34人
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	4人
LDLアフェレシス療法	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ペムトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 肺がん	0人
FDGを用いたポジロン断層撮影によるアルツハイマー病の診断	17人
放射線照射前に大量メトキサート療法を行った後のデモンロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにデモンロミド内服投与の維持療法	1人
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法	0人
術後のカペシタビン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	Squid captureを用いたIn-situ fenestrationによる血管内治療での弓部大動脈再建術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 全身状態不良患者さんの弓部大動脈瘤に対して大動脈内でステントグラフトに枝を作成し弓部大動脈再建を行う。			
医療技術名	胸腹部大動脈瘤に対する腹部分枝バイパスを併用した非開胸ステントグラフト治療	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 全身状態不良な患者さんの胸腹部大動脈瘤に対して腹部4分枝を人工血管でバイパスしたのちにステントグラフトを挿入して治療する。			
医療技術名	自己心膜を用いた大動脈再建術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 大動脈弁疾患の患者さんに対して人工弁を用いずに自己心膜をグルタルアルデハイドで固定したものでリーフレット(弁葉)を作成し、それを用いて大動脈弁再建する手術			
医療技術名	右腋窩切開による大動脈弁置換術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 正中切開を行わず右腋窩小切開にて行う大動脈弁置換術			
医療技術名	難治性てんかん患者に対する迷走神経刺激療法	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 難治性てんかん患者に対して、迷走神経刺激装置を体内に埋め込み、刺激強度を調整することにより、てんかん発作の治療を行う。			
医療技術名	難治性てんかん患者に対するてんかん外科治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 脳神経外科とともに難治性てんかん患者に対し、焦点切除術1人、脳梁離断術1人の術前・術後の評価、管理を行った。			
医療技術名	ヌシネルセン髄空内投与	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 脊髄性筋萎縮症患者に対し、ヌシネルセンの髄空内投与を行っている。			
医療技術名	超音波気管支鏡ガイド下経気管支リンパ節生検(EBUS-TBNA)	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 先端に超音波発信器が付属された超音波気管支鏡を用いて、気管・気管支の深層にあるリンパ節をエコーガイド下に穿刺吸引生検、診断を行う。			
医療技術名	超音波プローブおよび気管支鏡ナビゲーションシステム補助下経気管支肺生検	取扱患者数	74人
当該医療技術の概要 ナビゲーションシステムを用い、病巣との関与が考えられる気管支を同定、気管支鏡検査時間の短縮を図る。ナビゲーションの結果を参考としつつ、超音波プローブを用いて標的病変に確実に的中させ、ガイドシースを留置、同病変からの繰り返しの生検を行えるようにする。			
医療技術名	気管支サーモプラスチック	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 気管支鏡に電極付きのカテーテルを挿入し、高周波電流で気管支壁に熱を加えることで、喘息の原因となる肥厚した気道平滑筋の量を健常人に近づけ、気管支の収縮を抑制し、喘息の病態を改善する。			
医療技術名	一酸化窒素吸入量法	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 心臓手術後の肺高血圧に対し、肺血管拡張作用のある一酸化窒素を吸入させ、循環、呼吸状態の安定化を目的とする治療法。			

医療技術名	脳保護を目的とした血管内カテーテルを用いた低体温療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
蘇生後脳症、重症頭部外傷後に対し脳保護目的で体温を厳密にコントロールする治療法。中心静脈より留置したカテーテルを用いて冷却を行う。適切な鎮静、循環、呼吸管理をはじめとする集学的治療が必要であり、習熟したスタッフによる管理が求められる。			
医療技術名	肺保護を目的としたV-V ECMO療法	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要			
重症ARDSをはじめ、人工呼吸管理だけでは呼吸機能が保つことの出来ない病態に対し、肺機能の代替として体外循環を使用することで、肺の安静化、回復を図る肺保護のための治療法。その他の集学的治療、習熟したスタッフによる管理が求められる。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	56	ベーチェット病	119
2	筋萎縮性側索硬化症	3	57	特発性拡張型心筋症	34
3	脊髄性筋萎縮症	0	58	肥大型心筋症	4
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	10	60	再生不良性貧血	13
6	パーキンソン病	53	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	7	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	14
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリエー・トウース病	0	65	原発性免疫不全症候群	3
11	重症筋無力症	59	66	IgA腎症	13
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	6
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	78	68	黄色靭帯骨化症	0
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	11	69	後縦靭帯骨化症	3
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	98
17	多系統萎縮症	6	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	41	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	22	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	4	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	3	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	123
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	49
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	13
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	2
34	神経線維腫症	24	89	リンパ脈管筋腫症	10
35	天疱瘡	4	90	網膜色素変性症	14
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	4
37	膿疱性乾癬(汎発型)	2	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	93	原発性胆汁性肝硬変	40
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	7	95	自己免疫性肝炎	29
41	巨細胞性動脈炎	6	96	クローン病	37
42	結節性多発動脈炎	16	97	潰瘍性大腸炎	83
43	顕微鏡的多発血管炎	19	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	26	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	9	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	12	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	2	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	304	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	115	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	29	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	41	107	若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	56	108	TNF受容体関連周期熱症候群	0
54	成人スチル病	23	109	非典型溶血性尿毒症症候群	1
55	再発性多発軟骨炎	9	110	ブラウ症候群	0

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	7
113	筋ジストロフィー	6	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	0
118	脊髄腫瘍	0	168	エーラス・ダンロス症候群	3
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	2	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	2	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	2
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	1
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マジニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	2	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	7	208	修正大血管転位症	2
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	システロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	1	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	8
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	1
222	一次性ネフローゼ症候群	5	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	8
224	紫斑病性腎炎	2	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	2	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	3	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	2
232	カーニー複合	0	280	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	2
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノニー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	1
244	メーブルシロップ尿症	1	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	12
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	2
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	19

	疾 患 名			疾 患 名	患者数
307	カナパン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・データ提出加算2
・歯科外来診療環境体制加算2	・入退院支援加算1、入退院支援加算の注4(入院時支援加算)及び地域連携診療計画加算
・歯科診療特別対応連携加算	・認知症ケア加算2
・特定機能病院入院診療基本料(一般病棟7対1)	・精神疾患診療体制加算
・特定機能病院入院診療基本料(精神病棟13対1)	・救命救急入院料3
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料2
・診療録管理体制加算1	・新生児特定集中治療室管理料1
・医師事務作業補助体制加算1(20対1補助体制加算)	・小児入院医療管理料2及びプレイルーム加算
・急性期看護補助体制加算2(25対1看護補助者5割未満)	・
・看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	・
・看護補助加算2(精神病棟のみ)	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・感染防止対策地域連携加算	・
・抗菌薬適正使用支援加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・後発医薬品使用体制加算2	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・喘息治療管理料	・遺伝カウンセリング加算
・糖尿病合併症管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・胎児心エコー法
・がん患者指導管理料イ	・時間内歩行試験及びシヤトルウォーキングテスト
・がん患者指導管理料ロ	・ヘッドアップティルト試験
・がん患者指導管理料ハ	・長期継続頭蓋内脳波検査
・外来緩和ケア管理料	・長期脳波ビデオ同時記録検査1
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後の場合)	・神経学的検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・補聴器適合検査
・乳腺炎重症化ケア・指導料	・ロービジョン検査判断料
・ニコチン依存症管理料	・コンタクトレンズ検査料1
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・内服・点滴誘発試験
・がん治療連携計画策定料	・画像診断管理加算3
・肝炎インターフェロン治療計画料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・薬剤管理指導料	・CT撮影及びMRI撮影
・医療機器安全管理料1(歯科診療以外)	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料2(歯科診療以外)	・外傷全身CT加算
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・心臓MRI撮影加算
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・乳房MRI撮影加算
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・小児鎮静下MRI撮影加算
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・頭部MRI撮影加算
・遺伝学的検査	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・骨髄微小残存病変量測定	・外来化学療法加算1
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・無菌製剤処理料
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算
・国際標準検査管理加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・運動器リハビリテーション料(I)及び初期加算	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・呼吸器リハビリテーション料(I)及び初期加算	・胸腔鏡下弁形成術
・がん患者リハビリテーション料	・経カテーテル大動脈弁置換術
・精神科作業療法	・胸腔鏡下弁置換術
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・精神科デイ・ケア「小規模なもの」	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換(リードレスペースメーカー)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・医療保護入院等診療料	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・導入期加算1	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・センチネルリンパ節加算	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・補助人工心臓
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・羊膜移植術	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)
・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・腹腔鏡下痔腫瘍摘出術
・網膜再建術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・人工中耳植込術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・同種死体腎移植術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及び加算2	・生体腎移植術
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・膀胱水圧拡張術
・内視鏡下筋層切開術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・人工尿道括約筋植込・置換術	・口腔粘膜処置
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・歯根端切除手術の注3
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・歯科矯正診断料
・胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・輸血管理料 I	
・コーディネート体制充実加算	
・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
・レーザー機器加算	
・麻酔管理料(I)	
・麻酔管理料(II)	
・放射線治療専任加算(歯科診療以外)	
・外来放射線治療加算(歯科診療以外)	
・高エネルギー放射線治療	
・定位放射線治療	
・病理診断管理加算2	
・悪性腫瘍病理組織標本加算	
・歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	
・歯科口腔リハビリテーション料2	
・手術用顕微鏡加算	
・歯科技工加算1及び2	
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	
・歯周組織再生誘導手術	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・内視鏡下筋層切開術	・
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術	・
・骨髄微小残存病変量測定	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	15回
剖検の状況	剖検症例数 15 例 / 剖検率 6.5 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
1	肥満症とメタボリック症候群における新規ストレス関連脳内因子の解析	正木 孝幸	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
2	低分化型胃癌における遺伝子異常の網羅的解析	村上 和成	消化器内科学	1,040,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
3	緑膿菌性肺感染症の新しい制御戦略-抗原刺激成熟樹状細胞の移入によるワクチン開発	門田 淳一	呼吸器・感染症内科学	1,820,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
4	RNAiを用いた緑膿菌バイオフィルム感染症に対する新しい治療戦略	平松 和史	医療安全管理部	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
5	表皮角化細胞のPPAR α 低下は、アトピー性皮膚炎の誘導と悪循環に關与する。	波多野 豊	皮膚科学	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
6	ナノ炭素複合素材と電界紡糸技術を用いた高生体適合性細径カバードステントの開発	本郷 哲央	放射線医学	130,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
7	水溶性ビタミンE誘導体の脳保護作用の検討(スピン共鳴解析を用いて)	北野 敬明	麻酔科学	1,820,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
8	敗血症性ショックの機序の解明とリアルタイム測定によるビタミンC補充療法の確立	松本 重清	麻酔科学	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
9	新規抗酸化物質ETS-GSを用いた次世代脳保護薬の開発	古賀 寛教	手術部	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
10	尿道組織における細胞外マトリクスが尿禁制に及ぼす機能的、形態学的検討	住野 泰弘	腎泌尿器外科学	1,040,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
11	樹状細胞を標的とした経鼻ワクチンの臨床応用に向けた研究	児玉 悟	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
12	Toll様受容体アゴニストを用いた上気道粘膜免疫誘導と機序の解明	鈴木 正志	耳鼻咽喉科学	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
13	扁桃周囲膿瘍発症機序解明と予防戦略の確立	渡邊 哲生	耳鼻咽喉科学	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
14	マイクロRNAを標的とした新しい心筋保護治療の構築	手嶋 泰之	検査部	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
15	口腔扁平上皮癌に対するインテグリン機能を標的とした浸潤・転移抑制療法の確立	河野 憲司	歯科口腔外科学	1,040,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会

16	家族性弾性線維腫の遺伝子解析、肩運動との関連を求めて	藤原 作平	皮膚科学	390,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
17	肥満に高率に合併する心房細動の抑止に向けてーレプチンを標的とした新たな治療法ー	高橋 尚彦	循環器内科・臨床検査診断学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
18	肥満を伴う認知症予防における、脾臓IL-10合成能及び門脈血GLP-1の重要性	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
19	コケイン症候群における転写調節異常と神経細胞の分化・維持機構への影響	橋本 悟	臨床薬理学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
20	腎不全時の降圧治療の個別化を目指した新規バイオマーカーMR-proADMの開発	伊東 弘樹	薬剤部	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
21	糖尿病における洞結節機能障害発生メカニズムの解明	篠原 徹二	循環器内科	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
22	組織所見、音叉検査、遺伝子多型からみた抗がん剤による末梢神経障害の発現予測の検討	白尾 國昭	腫瘍・血液内科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
23	劇症型アニサキス症の病態形成機構の解明と原因分子の同定	水上 一弘	消化器内科	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
24	Leigh脳症におけるミトコンドリア選択的オートファジー活性の検討と治療応用	宮原 弘明	小児科	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
25	エピプラキンの遺伝子の多様性と低分子化機構	石川 一志	皮膚科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
26	微量なリチウムの抗自殺作用:自殺企図患者の血中リチウム濃度を指標とした研究	塩月 一平	精神科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
27	気質から見た双極性障害の病態進展と治療反応性の予測	寺尾 岳	精神神経医学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
28	医療画像-感覚情報変換によるマルチモーダル多感覚情報補助下画像診断法の研究開発	田上 秀一	放射線部	390,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
29	粘液産生性細気管支肺胞上皮癌に対する治療戦略	小副川 敦	呼吸器・乳腺外科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
30	神経活動依存的可塑性誘導・再教育を可能にする渦電流収束磁気刺激システムの開発研究	藤木 稔	脳神経外科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
31	スピンメタボロミクスに関する基礎的検討および臨床応用	新宮 千尋	手術部	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
32	慢性炎症を基盤とする病態におけるヒト外尿道括約筋の脆弱化機序の解明と治療法の開発	三股 浩光	腎泌尿器外科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

33	子宮内膜症において発現が増強しているmiR-210の意義に関する研究	楢原 久司	産科婦人科学	780,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
34	早産児の自発運動・姿勢評価:発達障害要因軽減を目指したケアへの応用	前田 知己	小児科学	1,820,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
35	角層pH調節機構の異常がアトピー性皮膚炎を誘発する	酒井 貴史	皮膚科	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
36	脊髄二次性損傷の炎症・免疫制御機構の解明と運動機能再建	内田 晋	脳神経外科	520,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
37	慢性腎不全患者に肝代謝型薬物の用量調節は必要か? -CYP3A活性低下の要因探索	鈴木 陽介	薬剤部	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
38	糖尿病における血糖変動は、糖尿病性心筋症を促進するか	齋藤 聖多郎	高度救命救急センター	1,950,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
39	膠原病様モデルマウスを用いたT細胞活性化をもたらす新規脂質メディエータの同定	尾崎 貴士	膠原病内科	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
40	角層pH上昇は、表皮内神経伸長反応を促進する	伊藤 亜希子	皮膚科学	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
41	うつ病における近赤外線光照射研究	兼久 雅之	精神科	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
42	光療法は神経新生を促進するか?: FDG-PET研究	河野 健太郎	精神神経医学	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
43	Driver遺伝子変異を有する肺癌における、空間・時間的な腫瘍内不均一性の解明	橋本 崇史	呼吸器外科	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
44	全身性炎症反応における体内時計制御を目的とした新たな光療法の開発	小山 淑正	手術部	1,040,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
45	アンギオポエチン様因子2が前立腺癌細胞の悪性化に与える影響についての研究	佐藤 竜太	腎泌尿器外科学	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
46	エストロゲン受容体βからみた非細菌性慢性前立腺炎の病態解明	溝口 晋輔	腎臓外科・泌尿器科	1,040,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
47	新規シェーグレン症候群モデル「TRAF6 欠損マウス」の病態基盤解析と治療開発	中野 聡子	眼科	1,950,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
48	高血圧及び糖尿病合併心房細動における心脾連関	近藤 秀和	循環器内科	1,950,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
49	透析患者の入院手術への透析専門医の介入が術後合併症、医療費に及ぼす影響の検討	中田 健	腎臓内科	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会

50	アルツハイマー病の発症機構における Neurovascular Unitの関与	木村 成志	神経内科学	780,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
51	抗イディオタイプ抗体を用いたアルツハイマー型認知症のワクチン療法の開発	藪内 健一	神経内科学	2,470,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
52	造影剤併用高分解MRIによる肝深在系リンパ管解析	松本 俊郎	放射線医学	2,080,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
53	Dual Energy CTによる抗癌剤体内分布の無侵襲定量法の開発V1	森 宣	放射線医学	2,470,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
54	抗炎症光線を用いた体腔内炎症治療法の検討-超低侵襲内視鏡治療デバイスの開発-	猪股 雅史	消化器・小児外科学	2,730,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
55	大腸がん標準治療開発のための国際多施設共同臨床試験	中嶋 健太郎	消化器外科	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
56	肥満外科バイパス手術モデルにおける消化管ホルモンと視床下部摂食中枢の変化について	太田 正之	消化器・小児外科学	2,730,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
57	制限増殖型レオウイルスに光線療法を併用した新しい集学的癌治療法の開発	衛藤 剛	消化器外科	2,600,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
58	レクチンマイクロアレイを用いた食道癌の再発予測マーカーの開発	圓福 真一朗	消化器・小児外科学	2,470,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
59	ラット脊椎固定モデルにおける抗RANKL抗体とBMPの相互効果の検討	宮崎 正志	整形外科	2,990,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
60	骨肉腫細胞の微小環境との相互作用における液性因子の意義についての研究	糸永 一朗	整形外科	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
61	前立腺癌骨転移において骨髄由来間葉系幹細胞が癌細胞の悪性形質獲得に与える影響	野村 威雄	腎臓外科・泌尿器科	1,820,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
62	エストロゲン受容体βからみた慢性非細菌性前立腺炎の病態解明と新規治療法の開発	森 健一	腎臓外科・泌尿器科	1,950,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
63	着床不全症例における子宮内膜への低反応レベルレーザーの効果と機序に関する研究	河野 康志	産科婦人科学	3,120,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
64	オートファジーを介した妊娠高血圧症候群のメタボローム解析と予知因子の同定	西田 欣広	産科婦人科学	2,860,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
65	慢性中耳炎における制御性T細胞の免疫寛容化機序の解析	平野 隆	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
66	アルツハイマー型認知症における次世代遺伝子治療・細胞内抗体治療法の開発	松原 悦朗	神経内科学	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会

67	電磁ホーン型ESRイメージング装置による高次脳機能障害の画像評価	杉田 憲司	脳神経外科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
68	小児難治性てんかん患者の心拍変動解析による突然死の危険因子の抽出	岡成 和夫	小児科	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
69	骨肉腫細胞に対するHSP90阻害剤とドキシソルビシン併用による抗腫瘍効果の増強	岩崎 達也	整形外科	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
70	miRNAが制御する子宮内膜症間質細胞の脱落膜化機構の解明と診断・治療への応用	甲斐 健太郎	産科婦人科学	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
71	上気道粘膜免疫における樹状細胞、NKT細胞、Th17細胞の機能関連の解析	梅本 真吾	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
72	鼻咽腔粘膜における好中球機能とTLR4およびTREM-1の協調的作用について	森山 宗仁	耳鼻咽喉科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
73	インフルエンザ菌によるphase variationと慢性中耳炎病態への関与	藤田 佳吾	耳鼻咽喉科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
74	ANCA関連血管炎の早期診断法の確立と中耳炎発症機構の解析	立山 香織	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
75	がん化学療法に伴う悪心・嘔吐治療の個別化を目指した新規バイオマーカーの開発	佐藤 雄己	薬剤部	2,340,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
76	Semaphorin- Neuropilin系の視点からの子宮内膜症の病態解明	西田 正和	産科婦人科	2,600,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
77	増殖硝子体網膜症の分子標的治療の開発	木許 賢一	眼科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
78	放射線による晩期炎症における遅発性活性酸素種の関与	小橋川 新子	放射線医学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
79	標的医療用Aβオリゴマー抗体をPETプローブ化した新規画像バイオマーカーの創出	松原 悦朗	神経内科学	6,760,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
80	光造形と生体内組織形成術による生体適合性に優れた弁再建用バイオリフレットの開発	宮本 伸二	心臓血管外科学	6,500,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
81	アプレピタントの抗癌剤による食欲不振と血中食欲関連ペプチド濃度に与える効果の検討	龍田 涼佑	薬剤部	510,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
82	CHDF施行患者におけるドリペネムの母集団薬物動態解析	野々下 航	薬剤部	570,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
83	認知症発症予測・予防介入・徘徊検知支援技術の開発と実用化を目指す研究	松原 悦朗	神経内科学	67,300,000	補委	国立研究開発機構 日本医療研究開発機構

84	喫煙妊婦の胎盤及びニコチン存在下の臍帯静脈血管内皮細胞のメタボローム解析	西田 欣広	産科婦人科学	2,000,000	補委	公益財団法人喫煙科学財団
85	肥満および認知症の発症における喫煙の影響	柴田 洋孝	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	2,000,000	補委	公益財団法人喫煙科学財団
86	肥満に伴うグルカゴン分泌異常に対するTrkBアゴニストの有用性	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科	300,000	補委	一般社団法人日本内分泌学会
87	肥満に伴う認知症の発症予防に対する豚肉接種による腸内環境改善効果の有用性	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科	800,000	補委	公益財団法人伊藤記念財団
88	非小細胞肺癌におけるDNA損傷修復と免疫チェックポイント分子との関連	小副川 敦	呼吸器・乳腺外科学	2,000,000	補委	公益財団法人武田科学振興財団
89	肥満を伴ったアルツハイマー型認知症発症予防に対するガラクトオリゴ糖の有用性	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科	1,000,000	補委	公益財団法人三井生命厚生財団
90	大豆イソフラボン摂取によるインクレチン分泌改善作用を用いた肥満を伴うアルツハイマー型認知症進展予防の検討	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科	1,000,000	補委	公益財団法人すかいらーくフードサイエンス研究所
91	生活習慣病に伴う認知機能悪化に対する大豆食品の予防効果	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科	1,000,000	補委	公益財団法人小柳財団
92	難治性脳腫瘍;びまん性橋膠腫 (DIPG) に対する新しいエピジェネティクス治療	宮原 弘明	小児科	150,000	補委	公益財団法人がんの子どもを守る会
93	骨盤脆弱性骨折は早期手術により予後が改善するか	金崎 彰三	整形外科	831,200	補委	AO財団
94	BKウイルス感染症に特化した抗体製剤による新規治療法の確立	三股 浩光	腎泌尿器外科学	500,000	補委	一般社団法人日本血液製剤機構
95	胸腺上皮性腫瘍(胸腺腫)におけるPD-L1発現の解析	内匠 陽平	呼吸器外科	100,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団
96	造血幹細胞移植におけるフェンタニルの適正使用についての検討	池邊 太一	腫瘍・血液内科学	200,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団
97	標準治療不応進行大腸癌症例に対するオキサリプラチン再投与の効果と安全性の検討	大津 智	腫瘍・血液内科学	200,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団
98	組織所見、音叉検査、遺伝子多型からみた抗がん剤による末梢神経障害の発現予測の検討	白尾 國昭	腫瘍・血液内科学講座	300,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団
99	腫瘍内不均一性がT790M変異陽性肺癌に対する第3世代TKI初期耐性に及ぼす影響の研究	橋本 崇史	呼吸器・乳腺外科学講座	100,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団
100	大腸癌肝転移に対する肝切除後化学療法の至適投与量に関する検討(臨床第I相試験)	内田 博貴	消化器小児外科	200,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団

101	成人T細胞白血病に対する同種造血細胞移植学会における至適ドナーソスの検討	緒方 正男	腫瘍・血液内科学	200,000	補 委	公益財団法人大分がん研究振興財団
102	分泌因子Tsukushiの新規肺腺癌マーカーとしての可能性の探求	河野 利恵	血液内科	200,000	補 委	公益財団法人大分がん研究振興財団
103	特発性心室細動(ブルガダ症候群、早期再分極症候群、原因不明の特発性心室細動)の機序及び診断・予後指標に関する多角的理研究	高橋 尚彦	循環器内科・臨床検査診断学	400,000	補 委	公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団
104	肥満に伴う認知症予防に対する大豆イソフラボンの有用性	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科	500,000	補 委	公益財団法人健康科学財団

計 104

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Ozeki Y Masaki T Yoshida Y 他	内分泌・糖尿 病内科	Bioelectrical Impedance Analysis Results for Estimating Body Composition Are Associated with Glucose Metabolism Following Laparoscopic Sleeve Gastrectomy in Obese Japanese Patients.	Nutrients. 2018 Oct 8;10(10). pii: E1456.	Original Article
2	Torigoe M Sakata K Ishii A 他	膠原病内科	Hydroxychloroquine efficiently suppresses inflammatory responses of human class-switched memory B cells via Toll-like receptor 9 inhibition.	Clin Immunol. 2018 Oct;195:1-7. Epub 2018 Jul 4.	Original Article
3	Komiya K Usagawa Y Kadota J 他	呼吸器内科	Decreasing use of percutaneous endoscopic gastrostomy tube feeding in Japan.	J Am Geriatr Soc 66(7), 1388-1391, 2018 5	Original Article
4	Shirai R Suzaki Y Sato K 他	呼吸器内科	Evaluation of bioequivalence between the new procaterol hydrochloride hydrate dry powder inhaler and the approved dry powder inhaler in patients with asthma in a randomized, double-dummy, crossover comparison study: a phase 3 study.	Clin Pharmacol in Drug Develop 7(4):, 392-399, 2018 5	Original Article
5	Nureki SI Tomer Y Venosa A 他	呼吸器内科	Expression of mutant Sftpc in murine alveolar epithelia drives spontaneous lung fibrosis	J Clin Invest, 31;128(9), 4008-4024, 2018 8	Original Article
6	Ando M Goto A Takeno Y 他	呼吸器内科	Significant elevation of the levels of B-cell activating factor (BAFF) in patients with sarcoidosis.	Clin Rheumatol 37(10), 2833-2838, 2018 10	Original Article
7	Otani S Hiramatsu K Hashinaga K 他	呼吸器内科	Sub-minimum inhibitory concentrations of ceftazidime inhibit Pseudomonas aeruginosa biofilm formation.	J Infect Chemother 24, 428-433. 2018 5	Original Article
8	Ishibashi M Kimura N Sumi K 他	神経内科	Comparison of brain perfusion patterns in dementia with Lewy bodies patients with or without cingulate island sign.	Geriatrics & Gerontology International 19 (3), 197-202, 2019 3	Original Article
9	Aso Y Chikazawa R Kimura Y 他	神経内科	Recurrent multiple cerebral infarctions related to the progression of adenomyosis: a case report.	BMC Neurology 18 (1), 119, 2018 8	Original Article
10	Ogata M Phan TL Fukuda T	血液内科	Antiviral Therapy for the Treatment of HHV-6-Associated Syndromes after Transplantation	American Journal of Transplantation 19(1), 306-307, 2019 1	Others
11	Takano K Ogata M Kawano R 他	血液内科	Comparison of HHV-6 DNA detection in plasma and whole blood in allogeneic hematopoietic stem cell transplant recipients: frequent false-positive results for active HHV-6 infection using whole blood samples.	Int J Hematol. 108(5), 535-542, 2018 11	Original Article

小計 11

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
12	Ogata M Takano K Moriuchi Y 他	血液内科	Effects of prophylactic foscarnet on HHV-6 reactivation and HHV-6 encephalitis in cord blood transplant recipients: a prospective multicenter trial with a historical control group.	Biology of Blood and Marrow Transplantation 24(6), 1264-1273, 2018 6	Original Article
13	Hironaka S	腫瘍内科	Edoxaban for Cancer-Associated Venous Thromboembolism.	N Engl J Med, 379(1), 93-94, 2018 7	Others.
14	Saito T Niida A Uchi R 他	消化器内科	A temporal shift of the evolutionary principle shaping intratumor heterogeneity in colorectal cancer.	Nat Commun 9(1), 2884, 2018 7	Original Article
15	Tsutsumi K Kusano C Suzuki S 他	消化器内科	Diagnostic Accuracy of Latex Agglutination Turbidimetric Immunoassay in Screening Adolescents for Helicobacter pylori Infection in Japan.	Digestion 98(2), 75-80., 2018 4	Original Article
16	Fukuda M Ishigaki H Ban H 他	消化器内科	No transformation of a fundic gland polyp with dysplasia into invasive carcinoma after 14 years of follow-up in a proton pump inhibitor-treated patient: A case report.	Pathol Int 68(12), 706-711., 2018 12	Case report
17	Sonoda A Kamiyama N Ozaka S 他	消化器内科	Oral administration of antibiotics results in fecal occult bleeding due to metabolic disorders and defective proliferation of the gut epithelial cell in mice.	Genes Cells 23(12), 1043-1055., 2018 12	Original Article
18	Hirakawa H Terao T Shirahama M	精神科	Light modulation for bipolar disorder: A commentary on "An update on adjunctive treatment options for bipolar disorder" by Dean et al (2018).	Bipolar Disord 21 (3), 282,, 2019 3	Original Article
19	Hirakawa H Terao T Hatano K 他	精神科	Relationship between ambient light and glucose metabolism in healthy subjects.	BMC Neuroscience 19 (1), 44,, 2018 7	Original Article
20	Shirahama M Terao T Ishii N 他	精神科	Relationship between anxious temperament and harm avoidance in medical students and staff.	Psychiatry Clin Neurosci 72,, 322-328,, 2018 5	Original Article
21	Shirahama M Terao T Hatano K 他	精神科	Use of gray sunglasses to alleviate hypomanic state in two patients with bipolar II disorder.	Bipolar Disord 21 (2), 182-184, 2019 3	Original Article
22	Hatano K Terao T Hayashi T 他	精神科	Affective temperaments are associated with the white matter microstructure in healthy participants.	Bipolar Disord, 2018, 11	Original Article
23	Kiyota K Yoshiura KI Houbara R 他	小児科	Auto-immune disorders in a child with PIK3CD variant and 22q13 deletion.	Eur J Med Genet 61 (10), 631-633,, 2018. 4	Case report
24	Sekiguchi K Itonaga T Maeda T 他	小児科	A case of CHARGE syndrome associated with hyperinsulinemic hypoglycemia in infancy.	Eur J Med Genet 61 (6), 312-314,, 2018. 6	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
25	Omotobara- Yabe T uga S Takeguchi M 他	小児科	Vitamin D deficiency associated with dilated cardiomyopathy in early infancy caused by maternal cholestasis.	Clin Pediatr Endocrinol 27 (3), 187-192, 2018. 7	Case report
26	Miyahara H Miyakawa K Nishida H 他	小児科	Unique cell tropism of HHV-6B in an infantile autopsy case of primary HHV-6B encephalitis.	Neuropathology 38 (4), 400-406, 2018. 8	Case report
27	Yamamoto H Sekiguchi K Takahashi M 他	小児科	A non-immune hydrops fetalis neonate born to a mother with yellow nail syndrome	Pediatr Int 61 (3), 313-315, 2019 3	Case report
28	Ramy Ahmed Ide S Kiyosue H 他	放射線科	Retrieval of a migrated N-butyl-2 cyanoacrylate cast using a snare-kit system during dural AVF embolization: A case report.	Interventional Neuroradiology. 24(5) 571-573. 2018 10	Case report
29	Silman C Matsumoto S Mori H 他	放射線科	Evaluation of the fat plane of the pancreatic groove using multidetector CT.	Cinical Radiology. 73(10) 910.e7-910.e13, 2018 10	Original Article
30	Takaji R Yamada Y Matsumoto S 他	放射線科	Small pancreatic ductal carcinomas on triple-phase contrast-enhanced computed tomography: enhanced rims and the pathologic correlation.	Abdominal Radiology. 43(12), 3374-3380. 2018 10	Original Article
31	Maruno M Kiyosue H Hongo N 他	放射線科	Where is the Origin of the Last Normal Branch from Feeding Artery of Pulmonary Arteriovenous Malformations?.	CardioVascular and Interventional Radiology 41(12), 1849-1856, 2018 12	Original Article
32	Silman C Matsumoto S Ono A 他	放射線科	¹⁸ F-FDG uptake in the normal appendix in adults: PET/CT evaluation.	Annals of Nuclear Medicine.2019 1 (33)265-268	Original Article
33	Otani N Toyoda S Sakuma M 他	臨床薬理	Effects of uric acid on vascular endothelial function from bedside to bench.	Hypertens Res. 41(11), 923-931, 2018 11	Original Article
34	Ogawa K Kanamori Y Watanabe T 他	消化器外科	Acute pancreatitis caused by a duodenal duplication cyst covering the ampulla of Vater	J Pediatr Surg Case Rep 34, 23-26, 2018 4	Original Article
35	Ohta M Seki Y Simon Ki- Hung ong 他	消化器外科	Bariatric/Metabolic Surgery in the Asia-Pacific Region : APMBSS 2018 Survey	Obes Surg 29(2), 534-541, 2019 1	Original Article
36	Fujishima H Shiroshita H Hara T 他	消化器外科	Clinical impact of laparoscopic intersphincteric resection following neoadjuvant chemoradiotherapy for locally advanced rectal cancer: case controlled study.	Ann Laparosc Endosc Surg Online, , 2018 4	Original Article
37	Endo Y Ohta M Tada K 他	消化器外科	Clinical significance of upper gastrointestinal endoscopy before laparoscopic bariatric procedures in Japanese patients.	Surg Today 49, 27-31, 2019 1	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
38	Iwashita Y Uchida H Takayama H 他	消化器外科	Control of inferior vena cava injury during laparoscopic surgery using a double balloon-equipped central venous catheter: proof of concept in a live porcine model.	Surg Endosc 32(5), 2397-2401, 2018 5	Original Article
39	Akagi T Inomata M	消化器外科	Dose CME contribute to improving the clinical outcomes of colon cancer?	Ann Laparosc Endosc Surg Online, , 2018 11	Original Article
40	Hirashita T Ohta M Yada K 他	消化器外科	Effect of pre-firing compression on the prevention of pancreatic fistula in distal pancreatectomy.	Am J Surg 216(3), 506-510, 2018 9	Original Article
41	Watanabe K Ohta M Takayama H 他	消化器外科	Effects of sleeve gastrectomy on nonalcoholic fatty liver disease in an obese rat model.	Obes Surg 28(6), 1532-1539, 2018 6	Original Article
42	Shiroshita H Inomata M Bandoh T 他	消化器外科	Endoscopic Surgery in Japan: The 13th National Survey (2014-2015) by the Japan Society for Endoscopic Surgery	Asia J Endosc Surg 12(1), 7-18, 2019 1	Original Article
43	Endo Y Ohta M Nakanuma H 他	消化器外科	Improvement in non-alcoholic fatty liver disease after laparoscopic sleeve gastrectomy in Japanese obese patients	Ann Gastroenterol Surg 3(3), 285-290, 2019 1	Original Article
44	Uchida H Iwashita Y Tada K 他	消化器外科	Laparoscopic Liver resection in cirrhotic patients with specific reference to a difficulty scoring system.	Langenbecks Arch Surg 403(3), 371- 377, 2018 5	Original Article
45	Iwashita Y Inomata M	消化器外科	Laparoscopic narrowband imaging for intraoperative diagnosis of the depth of invasion of gallbladder carcinoma: a preliminary study	J Hepatobiliary Pancreat Sci 26(2), 82-83, 2019 1	Original Article
46	Hiratsuka T Etoh T Nakajima K 他	消化器外科	Long-term outcomes of neoadjuvant-synchronous S-1 plus radiotherapy for locally advanced rectal cancer: a multi-institutional prospective phase II study.	JARC(Journal of the Anus, Rectum and Colon) 2(4), 168- 175, 2018 10	Original Article
47	Etoh T Honda M Kumamaru H 他	消化器外科	Morbidity and Mortality from a Propensity Score-Matched, Prospective Cohort Study of Laparoscopic Versus Open Total Gastrectomy for Gastric Cancer: Data from a Nationwide Web-Based Database.	Surg Endosc 32(6), 2766-2773, 2018 6	Original Article
48	Fujishima H Ueda Y Shiraishi N 他	消化器外科	Outcomes of R0 distal gastrectomy with limited (D1) lymph node dissection for advanced gastric cancer in elderly patients ≥ 80 Years	J Dig Dis Hepatol Online, , 2018 11	Original Article
49	Hirashita T Ohta M Tada K 他	消化器外科	Prognostic factors of non-ampullary duodenal adenocarcinoma.	Jpn J Clin Oncol 48 (8), 743-747, 2018 8	Original Article
50	Saga K Iwashita Y Hidano S 他	消化器外科	Secondary unconjugated bile acids induce hepatic stellate cell activation.	Int J Mol Sci 19(10), E3043, 2018 10	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
51	Sagawa N Ohno S Hiratsuka T 他	消化器外科	The utility of DHL-HisZnNa, a novel antioxidant, against anticancer agent-induced alopecia in breast cancer patients - a multicenter phase II clinical trial	Breast Cancer Res Treat. Online, , 2019 2	Original Article
52	Ueda Y Shiraishi N Hirashita T 他	消化器外科	Training tools and methods for laparoscopic surgery	Austin J Surg Online, , 2018 10	Original Article
53	Hirashita T Iwashita Y Nakanuma H 他	消化器外科	Pylorus-preserving pancreatoduodenectomy preserving right gastroepiploic vessels following proximal gastrectomy: report of two cases	Surg Case Rep 5(1), 41, 2018 5	Case report
54	Jianwei Ma T Hiratsuka T Etoh T 他	消化器外科	Anti-proliferation effect of blue light-emitting diodes against antibiotic-resistant Helicobacter pylori.	J Gastroenterol Hepatol 33(8), 1492-1499, 2018 8	Original Article
55	Osoegawa A Hashimoto T Takumi Y 他	呼吸器外科	Acquired resistance to an epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitor (EGFR-TKI) in an uncommon G719S EGFR mutation.	Invest New Drugs. 36(6), 999-1005, 2018 12	Original Article
56	Hashimoto T Osoegawa A Takumi Y 他	呼吸器外科	Intratumoral heterogeneity of copy number variation in lung cancer harboring L858R via immunohistochemical heterogeneous staining.	Lung Cancer. 124, 241-247, 2018 10	Original Article
57	Okamoto T Yano T Shimokawa M 他	呼吸器外科	A phase II randomized trial of adjuvant chemotherapy with S-1 versus S-1 plus cisplatin for completely resected pathological stage II/IIIA non-small cell lung cancer.	Lung Cancer, 124, 255-259 2018 10	Original Article
58	Takeuchi H Abe M Takumi Y 他	乳腺外科	Elevated red cell distribution width to platelet count-ratio predicts poor prognosis in patients with breast cancer.	Sci Rep. 9(1), 3033, 2019 2	Original Article
59	Mori K Anai H Wada T 他	心臓血管外科	Reconstruction of anomalous left coronary artery from pulmonary artery in an adult patient: a case report.	Journal of Cardiothoracic Surgery 14:40,, 1-4,, 2019 2	Case report
60	Fudaba H Momii Y Hirano T 他	脳神経外科	Recurrence of Biphenotypic Sinonasal Sarcoma With Cerebral Hemorrhaging.	J Craniofac Surg 29, e1-e2, 2019 1	Original Article
61	Kawano M Tanaka K Itonaga I 他	整形外科	Interaction between human osteosarcoma and mesenchymal stem cells via an interleukin-8 signaling loop in the tumor microenvironment.	Cell Commun Signal 16(1), 13, 2018 4	Original Article
62	Tanaka K Kawano M Iwasaki T 他	整形外科	A meta-analysis of randomized controlled trials that compare standard doxorubicin with other first-line chemotherapies for advanced/metastatic soft tissue sarcomas.	PLoS One 14(1), e0210671, 2019 1	Original Article
63	Abe T Kaku N Tabata T 他	整形外科	Clinical results of hemiarthroplasty using new bipolar cups for stage 3 or lower osteonecrosis of the femoral head: a retrospective study.	Musculoskelet Surg 102(3), 241-246, 2018 12	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
64	Miyazaki M Ishihara T Abe T 他	整形外科	Effect of thoracic kyphosis formation and rotational correction by direct vertebral rotation after the simultaneous double rod rotation technique for idiopathic scoliosis.	Clin Neurol Neurosurg 178, 56-62, 2019 3	Original Article
65	Tabata T Kaku N Tagomori H 他	整形外科	Influence of hip center position, anterior inferior iliac spine morphology, and ball head diameter on range of motion in total hip arthroplasty.	Orthop Traumatol Surg Res 105(1), 23-28, 2019 2	Original Article
66	Kanezaki S Miyazaki M Ishihara T 他	整形外科	Magnetic resonance imaging evaluation of intervertebral disc injuries can predict kyphotic deformity after posterior fixation of unstable thoracolumbar spine injuries.	Medicine(Baltimore). 97(28), e11442, 2018 7	Original Article
67	Kawano M Tanaka K Itonaga I 他	整形外科	MicroRNA-181c prevents apoptosis by targeting of FAS receptor in Ewing's sarcoma cells.	Cancer Cell Int 18(37), 1-11, 2018 5	Original Article
68	Miyazaki M Ishihara T Kanezaki S 他	整形外科	Relationship between vertebral morphology and the potential risk of spinal cord injury by pedicle screw in adolescent idiopathic scoliosis.	Clin Neurol Neurosurg 172, 143-150, 2018 9	Original Article
69	Miyazaki M Ishihara T Notani N 他	整形外科	Relationship of preoperative intramedullary MRI signal intensity and dynamic factors with surgical outcomes of laminoplasty for cervical ossification of the posterior longitudinal ligament.	Clin Neurol Neurosurg 174, 117-122, 2018 11	Original Article
70	Tanaka K Kawano M Iwasaki T 他	整形外科	Surrogacy of intermediate endpoints for overall survival in randomized controlled trials of first-line treatment for advanced soft tissue sarcoma in the pre- and post-pazopanib era: a meta-analytic evaluation.	BMC Cancer 19(1), 56, 2019 1	Original Article
71	Sato T Goto M Takeo N 他	皮膚科	Case of generalized morphea with the manifestation of diffuse systemic cutaneous sclerosis without sclerodactyly.	J Dermatol. 45(5)., e100-e101., 2018 5	Case report
72	Takeo N Nakamura M Nakayama S 他	皮膚科	Cochineal dye-induced immediate allergy : Review of Japanese cases and proposed new diagnostic chart.	Allergol Int. 67(4)., 496-505., 2018 10	Original Article
73	Zhang W Sakai T Matsuda - Hirose H 他	皮膚科	Cutaneous permeability barrier function in signal transducer and activator of transcription 6-deficient mice is superior to that in wild-type mice.	J Dermatol Sci. 92(1)., 54-61.d., 2018 10	Original Article
74	Ishikawa k Furuhashi M Sasaki T 他	皮膚科	Intragenic copy number variation within human epiplakin 1 (EPPK1) generates variation of molecular size of epiplakin.	J Dermatol Sci. 191(2)., 228-231., 2018 8	Original Article
75	Oatari M Uehara M Shimizu F	形成外科	Evaluation of the effects of a polyglycolic acid-collagen tube in the regeneration of facial nerve defects in rats.	Int J Artif Organs, 41(10), 664-669, 2018 10	Original Article
76	Uehara M Shimizu F	形成外科	The Distal Stump of the Intramuscular Motor Branch of the Obturator Nerve Is Useful for the Reconstruction of Long-Standing Facial Paralysis Using a Double-Powered Free Gracilis Muscle Flap Transfer.	J Craniofac Surg, 29(2) , 476-481 . 2018 5	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
77	Takei K Yamasaki M Abe S 他	腎臓外科・泌 尿器科	Laparoendoscopic single-site nephrectomy for hemodialysis patients with dialysis-related renal tumors.	Minim Invasive Ther Allied Technol. 27(3), 153-159., 2018 6	Original Article
78	Sakino Y Noda Y Itotani M 他	眼科	Simultaneous Angiography for the Anterior Segment and Posterior Fundus of Eyes with Anterior Segment Neovascularization using Heidelberg Retina Angiograph 2.	Current Trends in Ophthalmology 2 (1),93-98, 2019 1	Original Article
79	Watanabe T Suzuki M	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	Analysis of the audiogram shape in patients with idiopathic sudden sensorineural hearing loss using a cluster analysis.	ENTjournal 97(7), 2018 6	Original Article
80	Moriyama M Hirano T Kawano T 他	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	Toll-like receptor 4 plays an important role to enhance bacterial clearance from the nose in synergy with triggering receptor expressed on myeloid cells(TREM)-1 expression on polymorphonuclear neutrophils.	International Journal of Pediatric Otorhinolaryngology 112, 27-33, 2018 6	Original Article
81	Hirakawa T Nasu K Aoyagi Y 他	産科婦人科	ATM expression is attenuated by promoter hypermethylation in human ovarian endometriotic stromal cells.	Mol Hum Reprod 6(25) 6, 295-304, 2019 Jan	Original Article
82	Goto K Kawano Y Utsunomiya T 他	産科婦人科	Decidualization modulates a signal transduction system via protease-activated receptor-1 in endometrial stromal cells.	Am J Reprod Immunol 80(5), e13036, 2018 Nov	Original Article
83	Hirakawa T Nasu K Aoyagi Y 他	産科婦人科	Expression of angiogenic factors in sclerosing stromal tumours of the ovary.	J Obstet Gynaecol 38(5), 682-685, 2018 July	Original Article
84	Yano M Asami Y Nishikawa T 他	産科婦人科	Immune checkpoint inhibitors of CTLA4 and PD-1 for malignant melanoma arising in ovarian cystic teratoma: A case report. .	Medicine (Baltimore). 97(43):, e12937, 2018 Oct;	Case report
85	Yano M Ito K Yabuno A 他	産科婦人科	Impact of TP53 immunohistochemistry on the histological grading system for endometrial endometrioid carcinoma.	Mod Pathol. 11, 2019 Feb	Original Article
86	Kai K Kawano Y Yano M 他	産科婦人科	Ruptured external iliac artery pseudoaneurysm following surgery for ovarian cancer: A case report and literature review.	Taiwan J Obstet Gynecol. 57(2), 315-318, 2018 Apr	Original Article
87	Aoyagi Y Kai K Sumie M 他	産科婦人科	Therapeutic dilemma in twin reversed arterial perfusion sequence.	SAGE Open Med Case Rep 14(7), 2018 July	Original Article
88	Kai K Kawano Y Yano M 他	産科婦人科	Two cesarean deliveries after hemihysterectomy due to gestational trophoblastic neoplasia.	Taiwan J Obstet Gynecol 57(2):, 315-318., 2018 Apr;	Case report
89	Ohchi Y Goto K Yasuda N 他	麻酔科	High Efficiency Removal of Cytokines and HMGB-1 by Continuous Hemofiltration With a Dual Layered Polyethersulfone Membrane: An Ex Vivo Study.	Ther Apher Dial 23 (2), 173-179., 2018 11	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
90	Kosaka M Oyama Y Uchino T 他	麻酔科	Ultrasound-guided central venous tip confirmation via right external jugular vein using a right supraclavicular fossa view.	J Vasc Access 20 (1), 19-23., 2019 1	Original Article
91	Kurosawa K Terao T Kanehisa M 他	救命救急科	Naturally absorbed polyunsaturated fatty acids, lithium, and suicide-related behaviors: A case-controlled study.	J Affect Disord.1 (241),200 - 205, 2018 12	Original Article
92	Teshima R Hanada K Akada J 他	歯科口腔外科	Aggregatibacter actinomycetemcomitans infection causes DNA double-strand breaks in host cells.	Genes to Cells 23(4), 264-273, 2018 4	Original Article
93	Noguchi K Kamiyama N Hidano S 他	歯科口腔外科	Autoimmune sialadenitis is associated with the upregulation of chemokine/chemokine receptor pairs in T cell-specific TRAF6-deficient mice.	Biochemical and Biophysical Research Communications 504(1), 245-250, 2018 9	Original Article
94	Nishida H Kashima K Yano S 他	病理診断科・ 病理部	A Biotin Tagging Immunoelectron Microscopy for Paraffin-embedded Sections.	Appl Immunohistochem Mol Morphol. 2019 Mar 27.42-47	Original Article
95	Oyama Y Nishida H Kusaba T 他	病理診断科・ 病理部	Difference in transducin-like enhancer of split 1 protein expression between basal cell adenomas and basal cell adenocarcinomas - an immunohistochemical study.	Diagn Pathol. 2018 Jul 27;13(1):48.	Original Article
96	Sato Y Sumimoto T Tsushita H 他	薬剤部	Filgrastim biosimilar for neutropenia in gynecological cancer patients receiving chemotherapy: a prospective, single-center, non-randomized, open trial.	Pharmazie 8,, 486-488,, 2018 8	Original Article
97	Kaneko T Fujioka T Suzuki Y 他	薬剤部	Comparison of whole-blood tacrolimus concentrations measured by different immunoassay systems.	J Clin Lab Anal 32 (9), e22587, 2018 11	Original Article
98	Tanaka R Suzuki Y Goto K 他	薬剤部	Development and validation of sensitive and selective quantification of total and free daptomycin in human plasma using ultra-performance liquid chromatography coupled to tandem mass spectrometry.	J Pharm Biomed Anal 165, 56-64, 2019 2	Original Article
99	Suzuki Y Ono H Tanaka R 他	薬剤部	Recovery of OATP1B Activity after Living Kidney Transplantation in Patients with End-Stage Renal Disease.	Pharm Res 36(4),59,2019 2	Original Article
100	Tsubouchi Y Ikeda S Kataoka M 他	リハビリテー ション部	Combination therapy with low-dose teriparatide and zoledronate contributes to fracture healing on rat femoral fracture model.	J Orthop Surg Res 13 (1), 267-273,, 2018 10	Original Article

小計 11
計 100

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
----	-------	---------------------------	----	---------------	------

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 目的と適用範囲、組織・構成、設置者の責務、委員会の責務、委員会の運営、委員会事務局の業務、及び記録の保管について規定している。内容は、ヘルシンキ宣言及び人を対象とする医学系研究に関する倫理指針にすべて対応するものとして整備している。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 目的、定義、対象者、対象事象、審査する委員会に関する事項（審議事項、組織、任期、委員長、委員会の開催要件、委員以外の出席、審査手続き、審査内容、調査方法、概念の啓蒙、守秘義務）	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年19回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 臨床研究の責任者・分担者を必須受講者として、講演による講習を行っている。その他研究支援業務や倫理審査委員会委員、また間接的に研究に関わる者についても基本的には必須としている。内容は、研究倫理の歴史、倫理的な問題のある具体例の解説、指針が改訂された場合はその主なポイントの解説を行っている。	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

呼吸器内科臨床研修プログラム
内分泌・糖尿病内科専門医育成プログラム
リウマチ・膠原病内科専門医育成プログラム 他28件

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	85.91 人
-------------	---------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
門田 淳一	呼吸器内科	教授	37年	
柴田 洋孝	内分泌・糖尿病内科	教授	30年	
柴田 洋孝	膠原病内科	教授	30年	
柴田 洋孝	腎臓内科	教授	30年	
松原 悦朗	神経内科	教授	33年	
村上 和成	消化器内科	教授	35年	
高橋 尚彦	循環器内科	教授	30年	
白尾 國昭	血液内科	教授	35年	
白尾 國昭	腫瘍内科	教授	35年	
宮崎 英士	総合内科・総合診療科	教授	34年	
寺尾 岳	精神科	教授	33年	
井原 健二	小児科	教授	29年	
猪股 雅史	消化器外科	教授	30年	
杉尾 賢二	呼吸器外科	教授	36年	
杉尾 賢二	乳腺外科	教授	36年	
宮本 伸二	心臓血管外科	教授	34年	
藤木 稔	脳神経外科	教授	32年	
津村 弘	整形外科	教授	37年	
清水 史明	形成外科	講師	19年	
波多野 豊	皮膚科	教授	26年	
三股 浩光	腎臓外科・泌尿器科	教授	35年	
久保田 敏昭	眼科	教授	36年	
鈴木 正志	耳鼻咽喉科	教授	34年	
檜原 久司	産科婦人科	教授	34年	
松本 俊郎	放射線科	准教授	32年	
北野 敬明	麻酔科	教授	34年	
坂本 照夫	救命救急科	教授	41年	
片岡 晶志	リハビリテーション科	診療教授	31年	
河野 憲司	歯科口腔外科	教授	33年	
駄阿 勉	病理診断科・病理部	教授	31年	
上村 尚人	臨床薬理センター	教授	27年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況 (任意)

・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(看護部)

・看護師向け段階別研修の期間、実施回数、参加人数は別紙のとおり

・看護管理研修 外部講師による目標管理個別指導

平成 30 年 5 月 14 日 13:50~18:10 5 月 15 日 9:10~16:00

参加者 看護師長 27 名 副看護師長 57 名

・看護管理研修 外部講師による組織力強化、システム思考の研修

平成 31 年 3 月 12 日、13 日 9:00~16:00 参加者 看護師長 23 名 副看護師長 6 名

(放射線部)

(1) 放射線業務従事者教育訓練講習会

⇒放射線管理区域に入って放射線診療を行う者(新規対象者)ならびに更新者に対して、法令に基づき教育訓練研修を受ける必要がある。

・平成30年4月26日(新規) 参加者:67名

・平成30年6月20日(新規) 参加者:20名

・平成30年10月5日(新規) 参加者:17名

・平成30年5月25日(更新) 参加者:157名

・平成30年7月13日(更新) 参加者:52名

(2) 放射線技師室研修

・平成30年4月19日 医療安全研修(造影剤の副作用) 参加者:24名

・平成30年5月10日 放射線機器研修(ITEM報告) 参加者:25名

・平成30年5月31日 医療安全研修(インシデント) 参加者:26名

・平成30年6月5日 医療安全研修(造影剤の副作用) 参加者:25名

・平成30年6月14日 医療機器取扱い研修(PMDA) 参加者:24名

・平成30年6月28日 英語論文研修 参加者:27名

・平成30年8月1日 医療機器研修(脳神経系画像診断) 参加者:28名

・平成30年9月4日 医療安全研修(造影剤副作用対策) 参加者:26名

・平成30年9月20日 英語論文研修 参加者:26名

・平成30年10月3日 医療機器取扱い研修(線量管理システム) 参加者:22名

・平成30年10月24日 医療安全研修(ESURガイドライン) 参加者:26名

・平成30年12月18日 医療安全研修(アナフィラキシーショック) 参加者:26名

・平成31年1月16日 医療安全研修(造影剤) 参加者:25名

・平成31年1月30日 医療機器研修(ERCP検査) 参加者:28名

- ・平成31年2月14日 医療機器取扱い研修(線量管理システム) 参加者：20名
- ・平成31年3月1日 医療機器取扱い研修(線量管理システム) 参加者：21名
- ・平成31年3月5日 医療機器取扱い研修(線量管理システム) 参加者：23名
- ・平成31年3月6日 医療機器取扱い研修(線量管理システム) 参加者：24名
- ・平成31年3月12日 医療機器取扱い研修(線量管理システム) 参加者：22名

② 業務の管理に関する研修の実施状況(任意)

(薬剤部)

・研修の主な内容

新採用者オリエンテーションにより、本院において医療業務に携わる上で、各職員が必ず修得しておくべき基本的かつ重要な事項について周知・徹底している。

・研修の期間・実施回数

平成30年4月2日(月)、4月3日(火)

・研修の参加人数

111名

(放射線部)

(1) 特定機能病院における定期研修

⇒安全使用に際して技術の習熟が必要と考える医療機器に関する研修を、年2回程度定期的に実施することが義務付けられている。放射線部では放射線治療リニアック(直線加速器)と密封小線源治療(192-Ir)が該当する。

1) 放射線治療医学物理学教育講演

・平成30年4月12日～4月15日 参加者：1名

2) 放射線治療セミナー

・平成30年6月9日 参加者：2名

3) 放射線治療専門放射線技師認定セミナー

・平成30年7月7日 参加者：7名

4) 放射線治療研究会(那覇市)

・平成30年11月11日 参加者：1名

5) 放射線治療研究会(福岡市)

・平成30年12月1日 参加者：4名

6) 九州放射線治療システム研究会

・平成31年1月26日 参加者：2名

7) 放射線治療に関する研修会

・平成31年2月1日 参加者：4名

8) 大分県放射線治療研究会

・平成31年2月9日 参加者：7名

9) リニアック装置安全使用に関する講習会

・平成31年3月12日 参加者：9名

(2) 新しい医療機器の導入時の研修

⇒新しい医療用装置や機器を導入する際は、当該医療機器を使用する者に対する研修を行う必要がある。

1) MRI装置 機種：SIEMENS社製MAGNETOM Verio ⇒ MAGNETOM Skyra Fit
ヘユニットのバージョンアップが行われた。

①安全取扱い研修操作説明

・平成30年9月21日 参加者：8名

②機能アプリケーション説明

・平成30年10月3日～4日 参加者：8名

・平成30年10月18日 参加者：8名

・平成30年12月10日 参加者：8名

・平成31年2月22日 参加者：8名

(3) コ・メディカル新採用者オリエンテーション

⇒新採用となったコ・メディカル職員に対し「放射線と放射線防護の理解」について講義研修を実施した。

・平成30年4月2日

・参加者：90名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

年度別研修実績

対象年度: H30年度

研修名	人数	時間
新人看護職員研修		
新採用・サービスマナー・倫理	83	16
新人・フレッシュ研修	65	8
新人リフレッシュ研修	64	8
新人・1ラウンドフォローアップ	65	16
新人・2ラウンドフォローアップ	66	16
新人・1年目フォローアップ	65	16
技術演習	65	48
ME研修	83	16
薬の知識	84	2
褥瘡予防	86	1
新採用・医療安全管理	85	8
新採用・感染管理	85	8
BLS研修	81	8
看護過程I	80	48
コミュニケーション基礎編	56	16
新採用既卒者1ヶ月後フォローアップ	16	1
新採用既卒者3ヶ月後フォローアップ	20	1
新採用既卒者6ヶ月後フォローアップ	19	1
レベルII研修	1168	238
研修名	人数	
看護過程II(LII)	47	16
リーダーI(LII)	46	16
実地指導者研修	22	24
医療安全管理 レベルII	46	8
感染管理 レベルII	46	8
レベルII研修	207	72
研修名	人数	時間
看護過程III(LIII)	9	8
リーダーII(LIII)	20	9.5
事例検討・ベナー(LIII)	21	8
教育担当者研修	17	24
医療安全管理 レベルIII	27	16
感染管理 レベルIII	27	4
リフレクティブ研修	21	96
リフレクティブ研修フォローアップ	13	8
レベルIII研修	1155	173.5
地域包括ケア(公開講座)研修生のみ	12	1.5
地域包括ケア(施設見学・発表・GW)	12	12
研修名	人数	時間
コミュニケーションスキル(リフレクティブ④)		
看護と倫理	15	7.5
フィジカルII(リフレクティブ⑦研修生外)	6	8.5
論理的思考	23	8
がん化学療法看護	29	1.5
緩和ケア研修	18	1.5
がん看護	25	1.5
急性重症看護	17	1.5
心電図の基礎知識(ベーシック)	60	7.5
心電図の基礎知識(不整脈)	42	7
心電図の知識(虚血)	20	7
皮膚排泄ケア	25	1.5
フィジカルI(リフレクティブ⑦研修生外)	44	2
摂食嚥下障害看護I	29	1.5
災害看護(救急看護)	26	1.5
周術期看護	45	1.5
糖尿病看護I	36	1.5
集中ケアII(人工呼吸器装着中の看護)	27	1.5
老年看護(1日)	24	7
老年看護(半日)	0	0
地域包括ケア(公開講座)研修生以外	25	1.5
脳卒中リハビリテーション看護	22	1.5
慢性心不全看護	34	1.5
自主研修	592	74

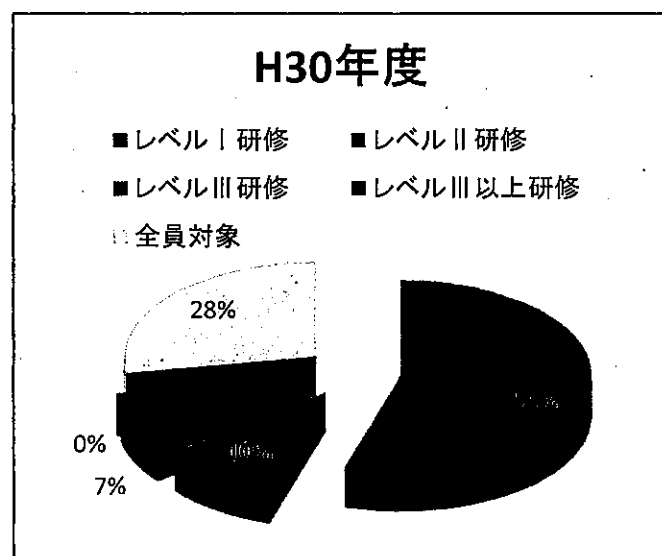
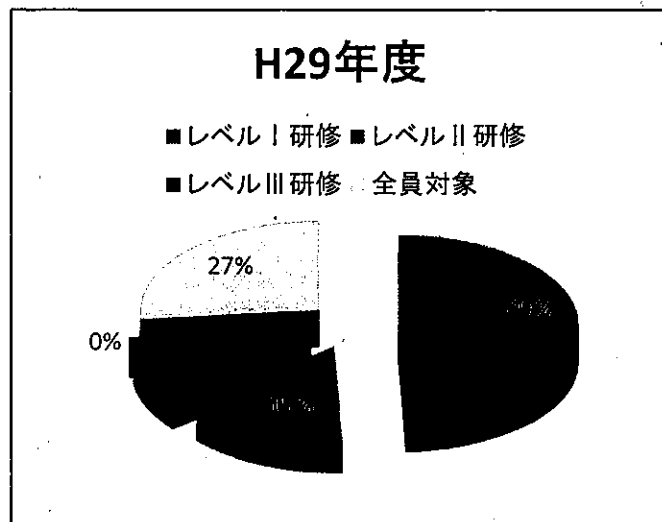
H29年度レベル別

受講者数	時間
レベルI研修	860 219
レベルII研修	255 72
レベルIII研修	154 165.5
	13.5
全員対象	464 77.5
受講者総数	1743 547.5

H30年度レベル別

受講者数	時間
レベルII研修	1168 238
レベルII研修	207 72
レベルIII研修	1155 173.5
	13.5
全員対象	592 74
受講者総数	2134 571

注) 全員対象: 自主研修



(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 門田淳一	
管理担当者氏名	診療記録管理責任者, 医薬品安全管理責任者, 医療機器安全管理責任者, 医療情報部長, 放射線部長, 看護部長, 各診療科長, 各診療施設長, 各課長	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	診療に関する記録は電子カルテ内に保存している。 病院日誌は紙媒体で、医事課で管理している。
		各科診療日誌	
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	医療事故報告の記録については、統計処理が行えるようデータ化して保管している。
		高度の医療の提供の実績	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	
		高度の医療の研修の実績	
		閲覧実績	
		紹介患者に対する医療提供の実績	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	総務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	医事課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課 (医療安全管理部)
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課 (医療安全管理部)
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課 (医療安全管理部)
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医事課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	医学・病院事務部長 大西 文昭		
閲覧担当者氏名	総務課長 牧 尚宣		
閲覧の求めに応じる場所	第2会議室		
閲覧の手続の概要			
・ 閲覧を希望する者は、総務課に申し込みを行う。			
・ 閲覧担当者は、閲覧を希望する者を閲覧場所の第2会議室に案内し、閲覧いただく。			

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全に関する基本的考え方 2. 医療安全管理に係る体制確保のための組織等 3. 医療安全管理に係る職員の教育・研修 4. 医療事故発生時の対応 5. 医療事故等の報告及び改善策の立案 6. 院内死亡全例の報告及び検証 7. 当該指針の閲覧 8. 患者と医療従事者との間の診療情報の共有に関する基本方針 9. 患者相談に関する基本方針 10. その他（医療安全管理マニュアル及び改善策の見直し、医療安全対策の推進を図る機関への報告、高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療の提供等） 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</p> <p>・ 開催状況：年 1.4 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理指針及び医療安全管理マニュアルの策定及び見直しに関すること。 2. 医療事故の判定に関すること。 3. 医療安全管理に関する改善策に関すること。 4. 医療安全管理のための職員研修に関すること。 5. 医事紛争に関すること。 <p>その他医療安全管理上の重要事項に関すること。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤の適切な取り扱いについて 2. 第 1 回 ME 機器講習会 3. 医薬品の適正使用について <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品情報・使用について ・ 医薬品の安全使用のための業務手順書について ・ 医薬品副作用報告について 4. 放射線部における医療安全対策 5. 第 2 回 ME 機器講習会 6. 平成 30 年度医療安全のまとめ 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事故（インシデント）報告については、調査・分析を行い、改善策の立案を行っている。 全体で共有すべき事例や新たに策定した安全対策については、毎月開催される病院運営委員会及びリスクマネージャー連絡会で周知し、全体に対しては、リスクマネージャーを通して周知を図っている。 2. 定期的に院内ラウンドを実施し、安全情報等の周知状況や安全確認手順の実施検証及び指導・助言を行っている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： 1. 院内感染に対する基本的考え方 2. 院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本的方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： 1. 感染予防対策の確立 2. 感染予防の実施，監視及び指導 3. 感染源の調査 4. 感染予防対策に関する情報の収集 5. その他感染予防に関すること 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： 1. AST（抗菌薬適正使用支援チーム）の取り組みについて 2. 当院の褥瘡発生状況と褥瘡症例から学ぶこと 3. 個人から組織レベルのインフルエンザ対策 4. 日々の行動を見直そう～院内感染対策と抗菌薬適正使用のポイント～ 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 院内の耐性菌検出状況や感染症患者の状況を電子カルテシステム内の感染制御システムで管理している。主要な耐性菌の検出状況や感染者情報については毎月報告を行っている。 2. 抗菌薬の使用状況やTDM実施状況についても定期的に報告を行っており，注意を要する抗菌薬については届出制とし，感染制御部の介入を実施している。 3. 感染制御部による院内ラウンドを定期的に行い，標準予防策や感染対策の実施状況の確認，指導を行っている。また，各種感染症サーベイランスも行っており，定期的に報告を行っている。 4. マニュアル変更や院内感染対策の重要情報については，病院運営委員会及び病院連絡会を通じて周知を図るとともに，感染制御部ニュースを発行し各部署へメール配信している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 7 回
・ 研修の主な内容： ○コ・メディカル新採用者オリエンテーション（対象：コ・メディカル新採用者） ○静脈注射研修会（対象：新人看護師） ○「薬の知識」研修会（対象：新人看護師） ○薬剤セミナー（医療安全管理セミナー、感染制御セミナー）（対象：全職員） ○医薬品の取り扱いについて（ビデオセミナー）（対象：中途採用者）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （ 有・無 ） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 平成 3 0 年 8 月に全病棟・部門を対象に実施し、確認内容を保管記録している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 1. 唾液腺がんに対するハーセプチン、ドセタキセルの点滴投与 2. ステロイド抵抗性自己免疫性肝炎に対するタクロリムスの経口投与 3. 円形脱毛症に対する D P C P 溶液の使用 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 得られた情報のうち必要なものについては医薬品を取り扱う職員に対して周知する。 D I ニュース（月 1 回発行）、薬剤部便り（月 1 回発行）、その他必要に応じて通知文書として配布している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 3 9 回
<p>研修の主な内容： 全従業者を対象としたME機器講習会（年2回）、新卒の医師・看護師の研修プログラム、新採用者のオリエンテーション、中途採用者については電子カルテ認証登録時のビデオセミナーでは、使用方法や点検に関する内容とともに当院で不具合が発生した場合の対応やマニュアルや添付文書などの遵守すべき内容を特に周知している。</p> <ol style="list-style-type: none">ME機器講習会：全従業者を対象に年2回実施、前期では基礎的知識や基本的な取り扱いとした内容、後期はインシデント事例や安全性情報に関連する内容等（医療材料含む）。研修プログラム：医療機器の取り扱いに関して組み込まれており、人工呼吸器などの生命維持管理装置や除細動器、ベッドサイドモニタや輸液ポンプなどの安全性や使用方法、保守点検に関して実機を用いた実習を含めた内容。各種医療機器に関する研修会：主に安全性や使用方法、保守点検に関してできる限り実機を用いた内容。導入時・借用時研修：新規導入時、生命維持管理装置や中央貸出機器の代替機やデモ機の場合には導入時研修と同様に内容を実施。放射線関連：医療法に掲げられた医療機器の安全使用のための研修として、①新しい医療機器の導入時の研修と②特定機能病院における定期研修（年2回以上）を実施している。 ①は、操作や取り扱いを担当するスタッフを対象として、安全使用に必要な項目について研修を行う。②は、直線加速装置（リニアック装置）、放射線照射装置（密封小線源治療）を担当する放射線治療診療放射線技師を対象として、技術・知識の習得が必要な講習会等に参加している。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>医療機器に係る計画の策定 （ 有・無 ）</p> <p>機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">添付文書やマニュアルに記載されている保守点検に関する事項を参照し、医療機器の特性などから特に保守点検が必要と考えられるものについて、保守点検計画書を作成している。保守点検間隔については、実施の翌月から数え、12ヵ月を超えないこととしている。医療機器安全管理専門委員会にて、前期では進捗状況の報告、後期の年度末では実施状況と来年度の計画について報告・承認を得なければならない。臨床工学技士や診療放射線技師等は機種別に作成された保守点検計画書に沿って実施し、それぞれが進捗状況の把握や責任者の押印にて確認している。放射線関連：放射線部検査に使用する大型医療装置に関して、保守点検年間計画表を作成し、それに従って実施している。保守点検において、日常点検は機器日常点検表に従って実施・記録し、月ごとに管理者が確認している。定期点検は、原則製造メーカーに委託し、必要な項目について点検や調整などのメンテナンスを行う。装置毎にメンテナンスファイルを作成し、日常点検ならびに定期点検の結果を保管している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>医療機器に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ）</p> <p>未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：</p> <ol style="list-style-type: none">腸骨動脈ステント（E-ールミネックス、イリアックウォールステント）：上（下）大静脈閉塞・狭窄部位をステントにより拡張し血流を再開・維持することにより症状を緩和させるフレックスエラ-J：狭窄、閉塞している食道の拡張を行い、内腔保持を目的とする <p>その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">経営管理課は供給業者に対して、物品購入契約締結後1週間以内に物品購入契約書、入札内訳書、見積書、カタログおよび添付文書とともに医療機器マスター登録書に必要な事項を記入の上、提出させる。これらの情報を基に医療機器安全管理システムにて照会し、	

- 設置部門での使用実績や同一機種がなく、新規導入機器であると判断した場合には、導入時研修の必要性の有無とともに医療機器安全管理責任者に報告する。
2. 安全性情報等の収集に関する協力依頼については、安全使用のために必要な情報を製造販売業者から一元的に収集するために添付文書の改訂、自主回収・改修等の不具合情報や安全性情報について全て経営管理課に提出・報告を求める周知文書を納品時、6月・12月に供給業者に通知し、社内での周知も依頼している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 9 条の 20 の 2 第 1 項第 1 号から第 1 3 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>・医療安全管理責任者 医師 1 名（医療安全担当副院長、医療安全管理部長）</p> <p>・大分大学医学部附属病院医療安全管理体制に関する細則第 3 条において、「医療安全管理責任者を置き、副院長（安全管理担当）をもって充て、医療安全管理責任者は、医療安全管理部、メディカル・リスクマネジメント委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する。」旨規定している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 6 名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>【院内の医薬品使用状況の確認】</p> <p>1 ヶ月に 1 回使用状況（使用量、5 ヶ月間未使用医薬品等）を確認している。また医薬品安全性情報の発出、医薬品自主回収の場合には、該当医薬品の使用状況を確認している。</p> <p>【各種情報の整理】</p> <p>医療安全担当主任が収集した使用状況を整理し、必要な情報について DI ニュース（月 1 回発行）、薬剤部便り（月 1 回発行）、通知文書等で周知している。周知状況は各部門・病棟毎に年 1 回確認票を基に確認している。</p> <p>【医薬品安全管理責任者への報告】</p> <p>医療安全担当主任は、整理した情報を必要に応じて医薬品安全管理責任者へ報告している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>【未承認等医薬品の処方状況の収集】</p> <p>薬剤部にて調剤や病棟薬剤業務時に未承認薬の使用を知り得た場合には、薬剤部医療安全担当主任へ報告し、未承認薬の処方状況を収集している。</p> <p>【未承認等医薬品のリスク検討の有無、処方の妥当性等の確認】</p> <p>医療安全担当主任は収集した情報を基に、処方の妥当性およびリスク等を確認している。</p> <p>【未承認等医薬品を処方した医師等に対し処方変更等の提案、医薬品安全管理責任者への報告】</p> <p>リスクおよび処方の妥当性を検討後、医療安全担当主任は適宜処方変更を医師へ提案している。さらに使用を継続する場合にはクオリティマネジメント室未承認新規医薬品等管理部門にて未承認薬の臨床使用について検討している。また、医療安全担当主任は検討結果についてリストを作成し、医薬品安全管理責任者へ必要に応じて報告している。</p>	

・担当者の指名の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・担当者の所属・職種： (所属：薬剤部 ， 職種：薬剤師 (医療安全担当主任))	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：平成30年7月に診療情報管理支援室で「検査等説明書」の記載項目の監査を実施。監査結果は、診療記録委員会、病院運営委員会、各診療科に報告。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 平成30年12月に診療記録委員会に診療記録監査チームを設置し、診療記録監査を実施。 平成31年2月に監査結果報告書を作成し、診療記録委員会、病院運営委員会で報告。また、各診療科へ監査結果報告書と個別結果をフィードバック。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
・所属職員：専従（4）名、専任（1）名、兼任（18）名 うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（7）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（3）名 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. メディカル・リスクマネジメント委員会（以下「委員会」という）が有効に機能するよう具体的な提案事項等の作成及びその他委員会の庶務に関すること 2. インシデント報告を分析し、その結果を委員会へ報告すること及び現場へのフィードバックに関すること 3. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと 4. 事故等について、患者や家族への説明などその発生時の対応状況の確認を行うとともに必要な指導を行うこと 5. 事故等について、その原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。 6. 医療内容についての相談等に関すること 7. 医療安全に係る連絡調整に関すること 8. 医療安全管理に関する職員研修の企画及び運営に関すること 9. 医療安全の推進に関すること 	

- 10. 医療安全に係る診療の状況の把握及び職員の意識向上の状況の確認に関する事。
- 11. その他医療安全に関し必要な事項

医師については、専従医師を 1 名配置、薬剤師については、専従薬剤師を 1 名配置、看護師については、専従看護師を 2 名配置済である。

診療内容及び従事者の医療安全の認識について平時からのモニタリングとして以下の項目を実施している。

- ・手術患者の肺血栓塞栓症の予防対策実施率
- ・手術の予定出血量と実測値の比較
- ・手術の予定手術時間と実際の手術時間の比較
- ・定期的に関催するセミナーでの小テストの実施

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（1 件）、及び許可件数（1 件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・活動の主な内容：

【大分大学医学部附属病院における高難度新規医療技術を用いた医療提供に関する細則（抜粋）】

- （1）高難度新規医療技術を実施する診療科の長（以下「診療科長」という。）から当該高難度新規医療技術の提供の申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、大分大学医学部附属病院高難度新規医療技術評価委員会に対し、当該高難度新規医療技術の提供の適否、その実施を認める条件等について意見を求めること。
- （2）前号の意見の求めに応じ、大分大学医学部附属病院高難度新規医療技術評価委員会が述べた意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、高難度新規医療技術の提供の申請を行った診療科長に対し、その結果を別に定める適否結果通知書により通知すること。
- （3）当該高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること。
- （4）高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、従業者の遵守状況の確認を行うこと。

(5) 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき、及び前号の遵守状況を確認したときに、その内容について病院長に報告すること。

(6) 大分大学医学部附属病院高難度新規医療技術評価委員会における審査資料及び議事概要並びに従業員の遵守状況の確認記録について、審査の日又は確認の日から5年間保存すること。

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)

・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (40 件)、及び許可件数 (40 件)

・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 ・ 無)

・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 ・ 無)

・ 活動の主な内容：

【大分大学医学部附属病院における未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関する細則 (抜粋)】

(1) 未承認新規医薬品等を使用する診療科の長 (以下「診療科長」という。) から当該未承認新規医薬品等の臨床使用に係る申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、大分大学医学部附属病院未承認新規医薬品等臨床使用審査委員会に対して当該未承認新規医薬品等の臨床使用の適否及び条件等について意見を求めること。

(2) 前号の意見の求めに応じ、大分大学医学部附属病院未承認新規医薬品等臨床使用審査委員会が述べた意見を踏まえ、当該未承認新規医薬品等の臨床使用の適否及び使用条件等について決定し、未承認新規医薬品等の臨床使用に係る申請を行った診療科長に対しその結果を書面により通知すること。

(3) 当該未承認新規医薬品等が適正な手続に基づき使用されていたかどうかに関し、定期的に、及び臨床使用後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること。

(4) 未承認新規医薬品等が適正な手続に基づき臨床において使用されていたかどうかに関し、従業者の遵守状況の確認を行うこと。

<p>(5) 未承認新規医薬品等の臨床使用の適否について決定したとき、及び前号の遵守状況を確認したときに、その内容について病院長に報告すること。</p> <p>(6) 大分大学医学部附属病院未承認新規医薬品等臨床使用審査委員会における審議資料及び議事概要並びに従業員の遵守状況の確認記録について、審査の日又は確認の日から5年間保存すること。</p> <p>・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)</p> <p>・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)</p>
<p>⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p> <p>・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年218件</p> <p>・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年27件</p> <p>・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 院内死亡症例の報告について検証・審議し、改善策の立案等を行うこと。</p>
<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <p>・ 他の特定機能病院等への立入り (<input checked="" type="checkbox"/> (病院名：千葉大学医学部附属病院) ・ 無)</p> <p>・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (<input checked="" type="checkbox"/> (病院名：新潟大学医歯学総合病院) ・ 無)</p> <p>・ 技術的助言の実施状況</p> <p>○ クオリティマネジメント室と医療安全管理部の間で直接の連携や情報伝達を行うことで、これらのモニタリング項目を一層有効に活用するため、組織の見直しを行い、組織図を変更した。</p> <p>○ 病院全体で取り組む医療安全の活性化、多職種からの意見を反映させた対策のために委員の追加配置を検討し、医療安全管理部運営会議委員として歯科医師を配置した。</p>
<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <p>・ 体制の確保状況</p> <p>① 患者相談窓口の活動の趣旨：「医療安全相談室のご紹介」にて院内掲示済み 患者相談窓口の設置状況：窓口名称 医療安全相談室（医事相談窓口），担当者及び相談に応じる職員：医療安全管理部副部長（医事課医療安全係長がサポートします），責任者：副病院長（安全管理担当），医療安全管理部長，相談に応じる時間帯：月～金 8：30～17：15</p>

② 医療安全管理マニュアル 総論 第7 (患者相談) に下記のように定めている

- 1) 医療相談の受付窓口は、患者相談窓口とする。
- 2) 医療相談があった場合は、原則として医療安全管理部副部長が対応する。
- 3) 相談者との面談は、他者のいない個室で、職員2人以上で対応する。
- 4) 医療相談に携わる職員は、その相談情報の機密保護について厳に注意し、患者等が不利益を受けることがないように配慮する。
- 5) 医療相談を行った場合は、患者等からの相談・苦情報告書を作成し、病院長まで報告する。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

平成30年度医療安全管理セミナー 6回実施

(1回毎に同内容でビデオセミナー4回実施 計30回)

(講師:薬剤師,診療放射線技師,臨床工学技士,医師)

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の全ての者が、公益財団法人日本医療機能評価機構主催の「平成30年度 特定機能病院管理者研修」を受講済

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第 7 条の 2 第 1 項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容

【国立大学法人大分大学医学部附属病院長の選考等に関する規程（抜粋）】

第 3 条 病院長候補者となることができる者は、医師免許を有し、かつ、国立大学法人大分大学の教授（教授予定者を含む。）であって、次の各号に掲げる資質及び能力を持つものとする。

- （1） 人格が高潔で、学識に優れ、人望があり、かつ、医学部附属病院（以下「本院」という。）の現状を理解した上で将来の在り方に明確な理念を持ち、リーダーシップを発揮できる者
- （2） 医療人教育機関である本院の責任を自覚し、優れた教育者として卒前教育、卒後研修及びその後の医療人養成に貢献できる者
- （3） 高度な医療を実践する本院の責任を自覚し、最先端の医療の提供を推進できる者
- （4） 患者の安全を第一として、医療安全の確保を担保する知識、経験及び能力を有する者
- （5） 科学としての医学の重要性を理解し、医学研究機関である本院の医学研究の発展に貢献できる者
- （6） 大分県の中核病院である本院のリーダーとして地域医療の現状を深く理解し、その維持及び発展に貢献できる者
- （7） 病院の運営に関する経験を有し、病院経営を担う能力を有する者

・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）

・ 公表の方法

医学部附属病院のホームページにおいて公表している。

規則第 7 条の 3 第 1 項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
津村 弘	大分大学	○		有・無
守山 正胤	大分大学医学部			有・無
三股 浩光	大分大学医学部			有・無
宮崎 英士	大分大学医学部			有・無
藤木 稔	大分大学医学部			有・無
柴田 洋孝	大分大学医学部			有・無
花田 俊勝	大分大学医学部			有・無
平松 和史	大分大学医学部			有・無
原田 千鶴	大分大学医学部			有・無
富永 志津代	大分大学医学部附属 病院			有・無
近藤 稔	大分県医師会，医療 法人近藤整形外科			有・無
田代 英哉	大分県病院局			有・無
内田 勝彦	大分県保健所，大分 県東部			有・無
草野 俊介	社会福祉法人大分県 社会福祉協議会			有・無

規則第 9 条の 2 3 第 1 項及び第 2 項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<p>・合議体の主要な審議内容 病院の運営方針，中期計画，予算及び決算 等</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 ○医学部附属病院運営に関する連絡会 ○医局長会 ○医学部附属病院の院内専用ホームページより常時閲覧可</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無）</p> <p>・公表の方法 法人本部のホームページにおいて公表している。</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
門田 淳一	○	医師	病院長，呼吸器内科長，認知症先端医療推進センター長，災害対策室長
柴田 洋孝		医師	内分泌・糖尿病内科長，膠原病内科長，腎臓内科長
松原 悦朗		医師	神経内科長
村上 和成		医師	病院長補佐，消化器内科長，内視鏡診療部長，肝疾患相談センター長
高橋 尚彦		医師	病院長補佐，循環器内科長，検査部長，CCU部長
白尾 國昭		医師	血液内科長，腫瘍内科長，輸血部長，総合患者支援センター長，腫瘍センター長
宮崎 英士		医師	副病院長，総合内科・総合診療科長，卒後臨床研修センター長
寺尾 岳		医師	精神科長
井原 健二		医師	小児科長，遺伝子診療室長
猪股 雅史		医師	病院長補佐，消化器外科長，小児外科長
杉尾 賢二		医師	副病院長，呼吸器外科長，乳腺外科長
宮本 伸二		医師	心臓血管外科長，ME機器センター長
藤木 稔		医師	脳神経外科長，リハビリテーション部長，女性医療人キャリア支援センター長
加来 信広		医師	整形外科長，リハビリテーション科長
清水 史明		医師	形成外科長

(様式第 6-3)

波多野 豊		医師	皮膚科長
三股 浩光		医師	副病院長, 腎臓外科・泌尿器科長, クオリティマ ネジメント室長, 血液浄化センター長
久保田 敏昭		医師	眼科長, 材料部長, 移植・再生医療支援室長
鈴木 正志		医師	副病院長, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科長
檜原 久司		医師	産科婦人科長, 周産母子センター長
松本 俊郎		医師	放射線科長, 放射線部長
北野 敬明		医師	麻酔科長, 手術部長, 集中治療部長
坂本 照夫		医師	救命救急科長, 高度救命救急センター長
河野 憲司		歯科医師	歯科口腔外科長
駄阿 勉		医師	病理診断科・病理部長
下村 剛		医師	医療情報部長
平松 和史		医師	副病院長, 感染制御部長, 医療安全管理部長
上村 尚人		医師	臨床薬理センター長, 総合臨床研究センター長
伊東 弘樹		薬剤師	副病院長, 薬剤部長
富永 志津代		看護師	副病院長, 看護部長
宮子 博		技術職員	医療技術部長
大西 文昭		事務職員	副病院長, 医学・病院事務部長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法
法人本部のホームページにおいて公表している。

- ・ 規程の主な内容
【大分大学医学部附属病院規程 (抜粋)】
(病院長)

- 第 3 条 病院に病院長を置く。
- 2 病院長は、病院の管理運営を総括し、職員を監督するため、次の各号に掲げる事項について権限を有する。
- (1) 病院の管理運営のために必要となる人事及び予算に関すること。
 - (2) 病院の診療、教育及び研究に係る実施の許可、報告、調査、是正又は停止に関すること。

- ・ 管理者をサポートする体制 (副院長、院長補佐、企画スタッフ等) 及び当該職員の役割
【大分大学医学部附属病院規程 (抜粋)】
(副病院長)

- 第 4 条 病院に副病院長 7 人を置き、総務・経営・企画担当、安全管理担当、医療人育成担当、先端医療・研究担当、薬事担当、看護担当及び事務担当とする。ただし、病院長が特に必要と認める場合は、更に 1 人の副病院長を置くことができる。

- 2 副病院長は、病院長の命を受け、次の各号に掲げる事項について病院長の職務を補佐する。
- (1) 副病院長 (総務・経営・企画担当)
主として本院における経営・企画等、運営戦略的事項全般に関すること。
 - (2) 副病院長 (安全管理担当)
主として本院における医療安全管理及び危機管理に関すること。
 - (3) 副病院長 (医療人育成担当)
主として本院及び関連病院における卒後臨床研修・地域医療研修の実施・計画等、医療人の育成に関する事項全般に関すること。
 - (4) 副病院長 (先端医療・研究担当)
主として本院における先端医療及び研究全般に関すること。
 - (5) 副病院長 (薬事担当)
主として本院における薬事業務全般に関すること。
 - (6) 副病院長 (看護担当)
主として本院における看護業務全般に関すること。
 - (7) 副病院長 (事務担当)
主として本院における事務業務全般に関すること。
 - (8) 副病院長 (特命事項担当)
必要に応じ置くものとし、主として病院長が指示した特命事項に関すること。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
特定機能病院管理者研修、病院経営戦略セミナー、医薬品安全管理責任者講習会

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無				
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>【国立大学法人大分大学医療安全監査委員会規程（抜粋）】</p> <p>(1) 医療安全管理責任者、大分大学医学部附属病院メディカル・リスクマネジメント委員会、医療安全管理部、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者等の業務が適切に行われているかどうかについて、病院長に報告を求めること。</p> <p>(2) 前号に規定する業務に関し、実地の確認を行うこと。</p> <p>(3) 学長又は病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講じるよう求めること。</p> <p>(4) 医療安全管理に係る監査業務の実施結果について公表すること。</p> <p>(5) その他医療安全管理の監査及び評価に関し必要な事項</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>法人本部及び医学部附属病院のホームページにおいて公表している。</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
井上 敏郎	大分県立病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
岡村 邦彦	岡村法律相談事務所		法律に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
大嶋 美登子	別府大学		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
小野 克重	大分大学医学部		学長が必要と認める者	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	3
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
 3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
医学部附属病院の業務に関し、特定機能要件及び医療法改正に伴う体制整備について定期監査を年に一度実施している。

- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (・ 無)
- ・ 公表の方法
法人本部のホームページにおいて公表している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 役員会で病院の管理運営に関する重要事項を、経営協議会で病院の収支報告について確認を行う。 ・ 会議体の実施状況 役員会 (年 8 回) ※令和元年 10 月 1 日時点の開催回数 経営協議会 (年 3 回) ※令和元年 10 月 1 日時点の開催回数 ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数 役員会 (<input checked="" type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無) (年 1 回) ※令和元年 10 月 1 日時点の出席回数 経営協議会 (<input checked="" type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無) (年 2 回) ※令和元年 10 月 1 日時点の出席回数 ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無 役員会 (<input checked="" type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無) 経営協議会 (<input checked="" type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無) ・ 公表の方法 役員会 (<input checked="" type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無) 経営協議会 (<input checked="" type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無) 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：役員会，経営協議会			
会議体の委員名簿（経営協議会）			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
北野 正剛	大分大学	○	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
津村 弘	大分大学		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
桑田 悟	大分大学		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
越智 義道	大分大学		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
西園 晃	大分大学		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
門田 淳一	大分大学医学部		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
相澤 仁	大分大学大学院福祉社会科学研究科		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
石井 久子	石井法律事務所 弁護士 大分県弁護士会 会長		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
衛藤 卓也	福岡大学名誉学長		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
尾崎 春樹	学校法人目白学園 理事長		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
桑野 和泉	由布院玉の湯 代表取締役社長		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
杉本 直幹	日本メドトロニック株式会社 顧問		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
田代 英哉	大分県病院局長		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
広瀬 勝貞	大分県知事		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
幸重 綱二	大分交通株式会社 相談役 大分県経営者協会 顧問		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の
情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 病院HP内の該当URLを貼付し、毎年4月にメーリングリスト(学内周知文書)を用いて、周知を行っている。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構による病院機能評価 (一般病院3) 令和元年7月24日～7月26日受審	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページによる情報発信 病院広報誌の発行 (年4回) 県内関連病院長連絡会議の開催 (年1回)	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 チーム医療 (外来化学療法チーム、緩和ケア支援チーム、褥瘡対策チーム、栄養サポートチーム等) を実践しており、複数診療科の医師及び多職種のスタッフが連携して対応を行っている。	